

カルケドン公会議

451年マルキアヌス皇帝によりカルケドン(コンスタンティノーブルの対岸に位置した都市)に召集されたキリスト教の公会議。召集の目的はキリストの位格に関し、神性についてはこれまで確認されてはきたものの、人性については定かではなかったもので、この点を討議するためでした。

会議の結果、キリストの人性は神性に吸収されてしまったとするいわゆる単性論を排し、神性と人性の二つの本性は、混合することも分かれることもなく、唯一の位格の中に有するという両性説が採用されました。神性と人性は分離されると考えるネストリウス派の考えもまた排斥されるに至りました。

以上により、以下のカルケドン信条が採択されました。この信条はカトリック教会、プロテスタント教会(特に長老派、改革派教会における正統派など)、正教会などの間で承認されている大変重要な信条です。

「われわれはみな、教父たちに従って、心を一つにして、次のように考え、宣言する。われわれの主イエス・キリストは唯一・同一の子である。同じ方が神性において完全であり、この同じかたが人間性においても完全である。同じかたが真の神であり、同時に理性的靈魂と肉体とからなる真の人間である。同じかたが神性において父と同一本質のものであるとともに、人間性においてわれわれと同一本質のものである。「罪のほかはすべてにおいてわれわれと同じである」神性においては、この世の前に父から生まれたが、この同じかたが、人間性においては終わりの時代に、われわれのため、われわれの救いのために、神の母、処女マリアから生まれた。彼は、唯一・同一のキリスト、主、ひとり子として、二つの本性において混ぜ合わされることなく、変化することなく、分割されることなく、引き離されることなく知られるかたである。子の結合によって二つの本性の差異が取り去られるのではなく、むしろ各々の本性の特質は保持され、唯一の位格、唯一の自立存在に共存している。彼は二つの位格に分けられたり、分割されたりはせず、唯一・同一のひとり子、神、ことば、イエス・キリストである。」

参考文献：

Wikipedia：[カルケドン公会議](#) 最終更新 2013年4月1日(月)09:43

Wikipedia：[カルケドン信条](#) 最終更新 2013年3月10日(日)14:31